平成２９年度第２回四街道市クリーンセンター運営協議会会議録（概要）

日　時　平成２９年１１月２０日（月）　１３時３０分から１４時４０分まで
場　所　クリーンセンター会議室
出席者　土屋裕会長　高橋良彦副会長　高橋進委員　篠原忠廣委員　山口喬也委員
　　羽生治郎委員

事務局　本田環境経済部長　宇田環境経済部次長　小出環境経済部参事
　　丸山クリーンセンター長　麻生環境政策課長　岩堀廃棄物対策課長
　　金子副主査　仲田主事

傍聴人　０人

―　会議次第　－
１．開会
２．会長あいさつ
３．議事
　（１）平成２９年度上半期のごみ処理状況について
　（２）平成２９年度上半期の環境測定調査結果について
　（３）その他
４．閉会

議事発言要旨

事務局　本日の出席者は８名です。なお、小川治秀委員、小川克己委員、松井隆信委員より欠席の連絡を受けています。

土屋会長　四街道市クリーンセンター運営協議会要綱第５条第７項に原則として公開すると規定されていますので本日の会議は公開といたします。また前回同様、会議録に発言者の氏名を明記しますが、よろしいでしょうか。
(異議なし)

土屋会長　傍聴の希望はありますか。

事務局　傍聴の希望はありません。

((1)平成２９年度上半期のごみ処理状況について)

篠原委員　プラスチック・ビニール類ごみの選別の機会とはどのようなものですか。

事務局　毎年不定期にテストがあります。その時の成績で四街道市の選別具合を評価されます。

篠原委員　　選別のやり方は変わらないのか。

事務局　　やり方は変わりません。

事務局　　家庭から出た中にプラスチック・ビニール類ごみ以外のごみがたくさん混ざっているので、それをクリーンセンターの場内で手選別します。その後、リサイクルするものとして搬出します。その中にどれだけ他のごみが混ざっていないかをテストする機会があったということです。

篠原委員　　業者の中でやっているのか。

事務局　　検査機関があります。

篠原委員　　異物が多いので、手選別時に厳しくチェックすると結果的にリサイクル協会への搬出量が減るという意味ですか。

事務局　　その通りです。

土屋会長　　前年度と比べプラスチック・ビニール類のリサイクル率が 52%から 46%に減っていたので、どういう意図があったのかなと思っていましたが、手選別をより強化してリサイクルにまわる物の品質を上げたということですね。

山口委員　　この資料は４月から９月までの前年の比較で良いですよね。

事務局　　その通りです。

山口委員　　資料の１ページ。この数字が減れば良いということなのですか。これで何を見るのですか。こういう結果が出たら仕事として良かったということなのか。何で減っているのか。こういう手立てをしたから減ったということなのか。それとも世の中の仕組みの中で減っているのか。多いことが良いのか悪いのか。この数字で減ったから良いのか。増えたから悪いとすればどういうことで増えたのかそういうようなものはどうなのですか。

事務局　　例えば資料１ページの上の表になりますと、可燃ごみが減っているということは、今まで可燃ごみで出ていたものの中から資源物へ回った等、あるごみが減って、あるごみが増えたということであれば分別が進んでいるのではないかと把握できます。

山口委員　　まず総数が去年より減ったということは市のごみ処理の仕事としては良しとするわけですね。

事務局　　28 年度が他の年度より多かったということも言えます。

山口委員　　総数で減るということはこれを見て何をどう判断するのか。こういう細かい数字を羅列されても、仕事として良かったのか。皆さんが何を手立てとしてやっているのか。総数を減らそうとするのか。資源物を増やそうとするのか。分別の精度を上げようとするのか。こういう表で何を良し悪しとして見るのか良くわからない。資源物が減っていますよね。総数が世の中全体で減ってそういう面からすると資源物に出てくるものが減ったとい

うことなのか。それとも資源物として出す量が四街道として減ったのか。こういうことが良くわからない。
だから無駄に捨てていたものが資源物として増えたなら良いことだなと思いますが、減っているということは資源物としてなるものも可燃ごみとして捨てられてないかと。こういうような感じがする。
この数字を基に皆さんがどういう手を打っていくのか分からない。
市全体として絶対数のごみ量を減らそうと言ってもごみなるものは変わらないわけですよね。その中の分別で資源物を増やそうとするなら市のメッセージとして出していかないといけない。やはり行政の施策でやっていかないといけない。この数字からどういう風に我々が判断して良いのか分からない。こういう数字で市民にこういう意識を持ってもらわないといけないとか。今まで市としてやっていた手立てで数字が反映されていることがあればメッセージとして出してもらえば良いかなと思います。そういうものなしにこういうものを出されてもコメントのしようがない。

土屋会長　市政だよりでも、ごみを減らしてくださいと。極力減らすのと正確な分別。そうすれば量も減りますでしょうし経費的にも安くなると。その辺は市政だよりで出されているようですけど。

事務局　一般的にはごみ量が減るということは良いことに繋がります。一つ考えられるのは、大型店舗に行きますと白色トレイやペットボトル、新聞紙等を回収するリサイクルボックスがありますが、市民の皆様のリサイクルに対する認識も高まってきており、そういうところに排出されている可能性もあると思います。そういうところから全体的にごみ量が減ってきていると感じています。これがどんどん減っていけばよろしいかと思います。
先ほど会長の説明でありましたが、四街道市の一人当たりの排出量を踏まえると、他の地区よりはリサイクルの観点からいくと市民の皆様の認識が高いと感じています。

山口委員　ごみ処理量が減っていて行政の費用にも貢献しているというものがある程度わかりやすく、こういうデータと一緒に流すようにしたら良いかなと思います。

事務局　他の自治体からデータがすぐもらえるかというとなかなか難しいと思うのですが、揃った段階でまた検討していきたい。

山口委員　四街道市がこういう風にデータを出しているわけだから、他の行政のデータぐらいは同じスパンでもらえるのではないか。協議会ではなく、行政としてメッセージとして年度の締めとして出しても良いのではないか。

事務局　今後勉強させていただきます。

土屋会長　その辺は広報でもっとアピールしてもらえればよろしいかと思います。

山口委員　先程のごみ処理量で四街道市の 290kg は一人当たりですか。

土屋会長　290kg は年間一人当たり。790g は一日一人当たりの排出量。環境省も県も比較の為にそういう出し方をしています。

羽生委員　ランキング的にはどうなのですか。

土屋会長　ランキングが書いてあるわけではないので分かりません。

高橋進委員　結局ごみを捨てる際のモチベーションの問題だと思います。そういう意味ではクリーンセンターの仕事内容とか一人当たりの四街道市のごみ量とか、それは知らしめるべきでは。他のとこから移ってきた人とか外国人は、なんでこんなに分けなきゃいけないのというのもあるわけですよ。そういったところから説明してもらえると山口委員が言ったようなことが少しずつ解決していくのではないか。

土屋会長　その辺は機会あるごとにやっていただきたいと思います。

篠原委員　先程の数字は可燃ごみに限定されているのですか。

土屋会長　排出されたごみの全量です。

高橋進委員　今日配られたグラフのリサイクル量の推移なのですが、ここに載っている新聞・雑誌は集積所で収集されたものだけですか。自治会や新聞社が決まった日に回収するものは全く載っていないのですか。

事務局　その通りです。

土屋会長　そちらにまわっている量もかなりあると思います。

((2)平成２９年度上半期の環境測定結果について)

山口委員　自動連続測定というのは入口に常時表示されているものですか。

事務局　その通りです。

土屋会長　上半期特に問題はなかったと思います。

((3)その他について(苦情一覧の説明))

意見等なし

事務局　平成 30 年 3 月 31 日を持ちまして委員の皆様方の任期が満了いたします。皆様方におかれましては２年間誠にありがとうございました。来年度には、区・自治会を通じて新委員の推薦等をお願いする予定ですのでどうぞよろしくお願いいたします。

土屋会長　これで本年度２回目のクリーンセンター運営協議会を閉会いたします。